

蜜蜂の伝染病に注意しましょう！

神奈川県
令和6年11月作成

蜜蜂にも様々な病気があります。
ここでは、家畜伝染病予防法で指定されている
伝染性疾病について紹介します。

◆ふそ病◆

蜜蜂の蛹と幼虫が腐る、細菌が原因の病気です。原因菌の違いにより、**アメリカふそ病**と**ヨーロッパふそ病**に分類されます。

アメリカふそ病 原因菌：*Paenibacillus larvae*

感染した幼虫は、巣房に蓋がされた後に死ぬことが多く、死んだ幼虫はネバネバとした状態になり、茶色から黒色へと変化します。

巣房の蓋は黒ずみ、張りを失ってへこみ、膠（にかわ）臭がします。

巣房に差し込んだ棒を
引き出すと糸を引きます



写真: (一社) 日本
養蜂協会より

ヨーロッパふそ病 原因菌：*Melissococcus plutonius*

感染した幼虫は、巣房に蓋がされる前に死ぬことが多く、死んだ幼虫は成虫によって巣から排除されます。

排除されない場合は、張りがなくなり、乳白色から褐色の水っぽい状態になります。

巣房は蓋のあるものとなないものが混在し、発酵臭、酸臭がすることがあります。

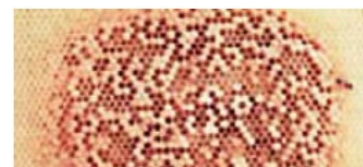


写真: (一社) 日本
養蜂協会より

ふそ病が発生した場合、本病の蔓延防止のために**発生蜂群を焼却等**します。盗蜂（ミツバチが他の巣の蜜を盗む行為）も感染原因となるため、**発生蜂群への早期の対応が大切です。**

予防のために、適正な管理を行い、蜂群を強く保つように心がけましょう。使用した蜂具等は洗浄・消毒しましょう。巣板は、一定期間で取り替えましょう。

次のページに続きます

◆バロア病◆

ミツバチヘギイタダニが原因です。蜂児に寄生し、体液を吸うため発育障害を引き起こします。

対策としては、殺ダニ剤等が有効ですが、薬剤に耐性を持つダニも確認されています。



◆アカリンドアニ症◆

アカリンドアニが原因です。本県でも発生が確認されています。重度寄生があると、呼吸困難、飛翔不能などがみられ、越冬期の蜂数が激減します。

現在、有効な薬剤はありません。

対策としては、冬季に蜂群を弱らせない適正な管理の実施が重要です。



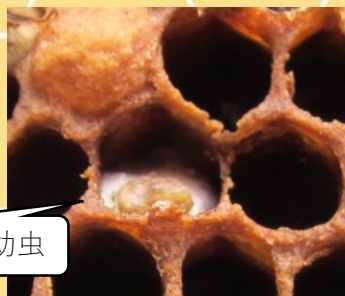
気管に寄生するダニ虫卵

◆チョーク病◆

ハチノスカビが幼虫に感染することが原因です。感染死した幼虫は菌糸に覆われチョーク様に見えます。

現在、有効な薬剤はありません。

対策としては、蜂群を強勢に維持し、蜂場の風通しをよくすることが重要です。また、器具の熱湯消毒、火炎滅菌などの対策が有効です。



感染死した幼虫



カビの菌糸

カビの胞子嚢

◆ノゼマ病◆

ノゼマ原虫が原因でおこる成蜂の消化管疾患です。早春に発生し、腹部膨満、飛翔不能、寿命短縮等が見られます。

わが国では許可された有効な薬剤はありません。

対策としては蜂群を強勢に保つとともに、器具資材の消毒など基本的な衛生管理を徹底することが重要です。

蜜蜂の伝染病かな？
と思ったら
すぐに家畜保健衛生所に
ご連絡ください。



神奈川県県央家畜保健衛生所

〒243-0417 海老名市本郷3678

TEL 046-238-9111

FAX 046-238-9124

神奈川県湘南家畜保健衛生所

〒259-1215 平塚市寺田縄345

TEL 0463-58-0152

FAX 0463-58-5679

ニホンミツバチを飼育される皆様へ

神奈川県
令和6年11月作成

適切な衛生管理により、蜜蜂の
伝染病の発生を予防しましょう！

蜜蜂は基本的には病気への抵抗力がありますが、何らかの原因で蜂児と成蜂のバランスが崩れたときに病気が発生します。「日本蜜蜂は西洋蜜蜂の病気にはかからない」という話をされる方もいますが、日本蜜蜂での腐蛆病の報告も挙がっており、同じ蜜蜂ですので西洋蜜蜂と同様に、病気になることもあると思って、日頃の飼養管理を徹底してください。

病気の予防には、適切な衛生管理により「強健な蜂群を維持する」ことが重要となります。定期的に蜜蜂の様子を観察するよう、お願いいたします。

神奈川県内でアカリンドニ症の発生がありました！

令和6年に、県内2カ所で飼養されている日本蜜蜂において、アカリンドニ症が確認されました。

アカリンドニ症とは

アカリンドニが蜜蜂(成蜂)の気管内に寄生・繁殖することにより起こる感染症です。

監視伝染病に指定され、届出が必要です。

主な症状

巣箱内や出入り口の異常蜂や飛翔力のない蜂が増加したり、寿命の短縮や死蜂の増加、Kウイング※、徘徊、冬期のコロニー消滅が確認されることもあります。

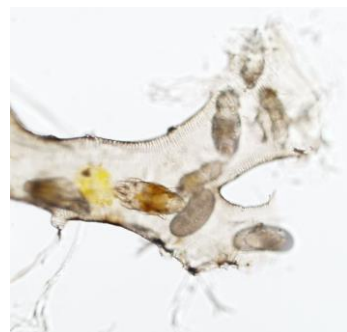
対策

日頃から蜜蜂の様子をよく観察し、衛生管理・飼養環境に気をつけることが重要です。特に冬期に蜂群を弱らせないようにしましょう。

また、巣箱は洗浄・乾燥・火炎消毒等をしっかりおこなったものを、次に使うようにしましょう。



アカリンドニ症以外にも蜜蜂の
病気はいろいろとあります！
異常が確認された場合は、家畜
保健衛生所まで連絡ください！



蜜蜂の気管内に寄生する
アカリンドニの虫卵
(H26県央家保撮影)



※後翅が飛び出した
ままの状態となり、K
の文字のようになる。
寄生個体の10%程度に
見られる。
(R6県央家保撮影)

ミツバチを飼育される皆様へ

神奈川県
令和6年11月作成

冬季の管理について！

冬は、蜜蜂が攻撃的になり、近づいただけで刺されてしまうこともあるため、十分注意するようにしてください。巣箱は人があまり近づくことがない場所に設置しましょう。

蜜蜂は巣の中で密集し、ハチミツを消費しながら厳しい冬を耐えます。ハチミツがなくなってしまうと餓死してしまうので、十分な貯蜜を残しておくことが越冬のポイントです。

蜂の数が少なく貯蜜の不足した群れは、冬の間には消滅してしまうことが多いです。貯蜜が少ない場合は、天候が良く暖かい日中に給餌用の砂糖水(水1：砂糖1の割合)を多めに与えましょう。

冬に入るとミツバチの活動が低下するので、冬に入るまでに準備しておくことが大切です。強い蜂群を維持し、十分な貯蜜をし、適切な衛生管理と定期的な観察により寒い冬を乗り越えましょう。

県央家畜保健衛生所

〒243-0417 海老名市本郷3678

TEL 046-238-9111

FAX 046-238-9124

湘南家畜保健衛生所

〒259-1215 平塚市寺田縄345

TEL 0463-58-0152

FAX 0463-58-5679